

修了後の学習機会

ABSでは、修了後の学習機会も提供しています。創造的リーダーになるためには、修了後も継続的な学習が必要です。その時々々の経営課題や最先端の経営知識に触れ、経営能力のブラッシュアップが可能な仕組みになっています。

》 科目等履修生制度

修了生は、選択科目を受講することができます(科目数と人数の制限があります)。在学中に履修できなかった科目や修了後に興味を持った科目、修了後に新設された科目など、常に新しい知識を得ることができます。



》 自主研究会

修了生がコーディネートしている自主的な研究会が複数あります。最も活発に活動している「青山フィロソフィー・フォーラム」は、土曜日に年間5回程度開催し、哲学や社会思想、リーダーシップ論を中心にディスカッションしています。

》 各種講演会

「授業外の学習機会(P15)」でご紹介した青山MBAフォーラムやマーケティング文化祭などは、修了生も参加できます。企業経営者の講演や在学生の研究発表は、ビジネスのヒントを与えてくれるかもしれません。



》 図書館

修了生は、申請を行うことにより大学の図書館が使用できます。青山キャンパスの青山学院大学図書館、相模原キャンパスの万代記念図書館と併せて176万冊の蔵書があるので、経営に関する書籍に留まらず、幅広い分野の書籍を借りることができます。交通アクセスの良さゆえに、多くの修了生が利用しています。

Alumni 同窓会

青山ビジネススクール同窓会(ABS ALUMNI)は、ABSの修了生を中心とした組織で、会員相互の交流・研鑽・親睦を推進することでABSの発展と更なる価値向上に寄与することを理念としています。

≫ 会長挨拶



ABSは前身の国際ビジネス専攻科を含め、既に2,300名超の修了生を輩出しています。ABS Alumniは、修了生の皆様が、再び最新の経営理論や様々な業界の事例を学び、スポーツ等趣味の交流を深め、さらに在学生に向けビジネス最前線情報を伝えるために、青山に戻ってくる場、立ち寄る場であり続けたいと考えています。

Learn together, Enjoy together, Live together, ABS!
ぜひ一緒にABS Alumni活動を楽しんでいきましょう。

伊藤 正貴
ABS Alumni 会長

1992年、株式会社東急百貨店に入社。多くのプロジェクトマネジメント業務に従事。現在は経営統括室事業開発部長を担当。ABSは2006年度フレックスコース修了。在学時は、スポーツサークルの前身にあたるフットサルチームを結成し活動。ABS Alumniは設立時より関わり、2018年Alumni会長に就任。

≫ 主な活動

ABS ALUMNIでは在校生・修了生の垣根を超えた幅広い活動が行われています。入学時点からALUMNIメンバーとしての参加を歓迎しております。



朝活勉強会「イチゴ会」

修了生と在学生をつなぐ朝活セミナー。ビジネスや自身の体験、旬の話題などをテーマに語りあいます。

過去のテーマ例

- ・ ジェンダーバイアスと女性のキャリア
- ・ ABSアフリカ研究会活動報告
- ・ 演劇でビジネスを学ぶ?!

<ALUMNI Web>

<http://www.aoyamabs-alumni.jp>

<ALUMNI Facebook>

<https://www.facebook.com/ABSAlumni>

- 総会・ホームカミングデー(基調講演および懇親会)
- 青山学院大学同窓祭での公開講座
- ALUMNI講座(修了生および一般に開放されたオープン・セミナー)
- 業種・職種・専門分野別の勉強会・ネットワーキング(教員・在校生・修了生・業界関係者参加)
- 在校生と修了生の交流会(毎月15日の朝活勉強会「イチゴ会」、留学生就職セミナーなど)
- 在校生主催イベント参加・学園祭出店サポート
- 趣味、ボランティア、BBQ等のコミュニティ活動
- フットサル、バスケットボールなどの定期的スポーツ活動

≫ 専用ウェブ会員システム TSUNAGU

「TSUNAGU」は修了生・在校生・教員専用のABS ALUMNI公式名簿システムです。同窓生を入学年・業種別などで検索しコンタクトを取り合ったり、自己プロフィールページ機能、メールマガジン配信やビジネス交流掲示板を利用したり等、在学中からABSネットワークを活用する事が出来ます。



産学・社会連携活動

ABSでは、社会的責任(Social Responsibility)を果たす人材を養成し、広く社会に貢献していくため、企業・団体や地域との各種連携事業などを通して社会連携と貢献活動を推進しております。

産学連携活動

ABSの授業運営には、各分野の専門家・実務家など非常勤講師(2019年度29名)が関わり、また、ゲストスピーカー(2018年度152名)による授業内講演が実施されています。

MPP授業での産学連携

マーケティング分野の青山アクション・ラーニング科目群「マーケティング・プランニング・プロジェクト(MPP)」では、特に時代を捉えたテーマで、企業・団体と産学連携し、学生がそのマーケティング戦略を策定し連携先に提案するプロジェクト型演習を行っています。

2018年度は、シェアリングエコノミーをテーマにパソナ株式会社と産学連携し、都市部及び地方の複数地域を対象に、そこで考えられるシェアリングエコノミー戦略を策定しました。2019年度は、米国オレゴン州ポートランド市の地域活性化に学び、東京郊外生活の充実へ向けて世田谷区を対象とした地域価値向上の戦略デザインに取り組みました(連携先は、玉川高島屋S・Cなどを運営する高島屋グループの商業デベロッパーである東神開発株式会社)。

これまでの主な連携先:東京急行電鉄株式会社、株式会社明治、株式会社ティップネス、キーコーヒー株式会社、株式会社ヤクルト球団、株式会社西武ライオンズなど

地域連携活動

愛媛県西条市・地域企業との連携

青山学院大学の青山キャンパスは、江戸時代伊予西条藩松平家の上屋敷であった敷地に立地しており、西条市と青学とは歴史的なゆかりとつながりを持っています。ABSは、愛媛県西条市の第三セクターである「株式会社西条産業情報支援センター」(略称:SICS)と連携し、同所にサテライト型研究室を設け、西条市の地域研究及び、地域の企業などと連携した地域



社会連携活動

団体との連携

日本証券アナリスト協会、日本CFA(Chartered Financial Analyst)協会などと連携したファイナンス関連科目開発、イベントの開催を行っています。

また米国PMI(Project Management Institute)日本支部とアカデミック・スポンサー契約を結び、学生のプロジェクト・マネジメント専門家資格の取得を促し、その専門家人材の育成を進めています。

コミュニティ・ベースト・ラーニング(CBL)

CBLは、従来の「ボランティア」「サービス・ラーニング」概念を超えて、コミュニティの関係が深く、その活動の成長や革新につながる協働の学びの取り組みとされています。ABSでは、複数の科目でCBL要素が積極的に取り入れています。

例えば、一般社団法人グリーンカラー・プラネットの寄附講座「農業マーケティング」では、毎年、東京近郊の自然農で受講学生が実際の農作業を体験し「ファーム・トゥ・テーブル」の仕組みを学ぶとともに、新たな農業へのイノベーションを構想し提案しています。



活性化に関する研究活動を行っています(2018年度・2019年度宮副研究室-西条市地域研究事業支援補助金交付、及び青山学院総合研究所研究ユニットとしての研究)

「地域活性化のマーケティング/プランニング」授業などでの地域連携

これまでの主な地域連携先:徳島県神山町、静岡県熱海市、北海道別海町、岩手県一関市、茨城県潮来市、福岡市など



ABSは、持続可能な社会づくりに向け、上記のような教育・研究活動を通じてSDGsに取り組むとともに、そのような活動を担う将来人材の育成に特に力を入れています。

Global Network

海外ビジネススクール
とのつながり

ABSは、経済・社会のグローバル化が進む中で企業経営をリードできる経営プロフェッショナル人材の養成を目標に掲げ、海外ビジネススクールと次のような様々な接点とかたちで交流を行うなど国際性豊かなカリキュラムを提供しています。

海外ビジネススクールの教授陣による講義・セミナー

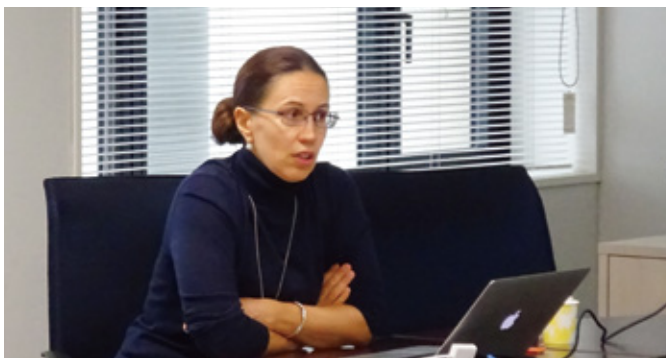
海外のビジネスや学術研究の最新の実情や動向について、海外の大学から専門の教授陣を招き、講義頂くことで、グローバル化人材の育成を目的としています。



クリスチャン・フランケル准教授:コペンハーゲン・ビジネススクール(デンマーク)【右】
マーティン・コルンパーガー教授:EMリヨン・ビジネススクール(フランス)【中央】



ホセ・オサンドン准教授:コペンハーゲン・ビジネススクール(デンマーク)【手前】
トマス・アリツィア准教授:ディエゴ・ポルタレス大学(チリ)【奥】



アンナ・グリュズノバ教授:モスクワ大学ビジネススクール(ロシア)



トマス・ドマンスキー教授:ロツ大学(ポーランド)

交流プログラム

「海外研修セミナー」として海外のビジネススクールを訪問したり、海外からビジネススクールの教員・学生を受け入れ、活発に交流を図っています。



海外研修セミナー/タマサート大学ビジネススクール(タイ)への訪問



モスクワ大学ビジネススクール(ロシア)教員・学生のABS来訪